

## 鮮やかな新畳で技を競う!

### 第27回(公社)愛知県柔道整復師会 少年少女柔道大会



4月15日(日)午前10時から午後2時10分まで愛知県武道館大道場にて、第27回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年少女柔道大会が開催された。

愛知県武道館設立から30年が経ち、第1競技場(大道場)の650枚の畳が初めて新調され、国際試合で採用される黄と赤の柔道畳が敷き詰められた。新畳初めての試合が本大会となった。

森川大会会長は、「試合に勝っても負けても、礼法に則り相手に敬意を払い、人の痛みや苦しみがわかる思いやりの精神を柔道の試合を通じて養ってほしい」と挨拶。

名郷颯馬選手(6年・稲沢柔道会)の素晴らしい選手宣誓のあと、愛知県下53の道場や柔道教室に通う小学4年生から6年生までの男女合計451名がエントリーし、8会場で試合が一斉に開始された。試合は礼法を重視するなか凛とした雰囲気で行われた。



大会会長賞は3年連続で大多和 心選手(6年・大石道場)が選出された。日整大会メンバー監督の羽田野 剛会員(豊橋支部)は、「チーム一丸となり全国連覇目指して頑張りたい」と抱負を語った。鼻出血があったものの、大きなけがもなく本大会は成功裏に終わった。

【優勝】男子▷小4 山口楽斗(羽田野道場)▷小5 黒野琢磨(東海少年柔道教室)▷小6 名郷颯馬(稲沢柔道会) 女子▷小4 嶋田真佑美(羽田野道場)▷小5 土川恵璃(大石道場)▷小6 大多和 心(大石道場)

【大会会長賞】男子▷小6 名郷颯馬 女子▷小6 大多和 心

【日整出場選手】監督・羽田野 剛、大将・名郷颯馬、副将・大多和 心、中堅・黒野琢磨、次鋒・土川恵璃、先鋒・山口楽斗

## 平成29年度 講師派遣事業終了

日本福祉大学社会福祉総合研修センターの依頼により実施されている講師派遣事業の平成29年度分が終了した。

「転倒からの復活」では8ヶ所で207名が聴講し、「腰痛予防教室」では5ヶ所で(103名)が聴講した。

また研修センター経由とは別に、名古屋市高年大学鯉城学園や民間の介護施設などから本会へ、合計6件(231名)の直接の派遣依頼があった。

開催日	開催地	聴講者
5.21	安城市	40名
6.11	安城市	40名
7.13	日進市	8名
7.13	東郷町	13名
8.29	安城市	20名
9.26	幸田町	40名
10.25	みよし市	16名
2.17	刈谷市	30名
6.11	北名古屋市	24名
6.25	北名古屋市	16名
10.25	設楽町	10名
11.14	清須市	28名
11.15	津島市	25名

## 平成29年度 第1回臨床実習指導者講習会(名古屋会場)開催



このたびの養成施設の kurikulum 改正により、臨床実習の単位数が1単位(45時間)から4単位(180時間)に大幅に増加し、それに伴い学校の附属接骨院以外の施術所等でのいわゆる臨地実習が課せられた。また受入れ側の接骨院も、教員免許保有者を除き2日間16時間の講習会の受講が義務付けられた。

そこで今回、全国柔道整復学校協会主催、米田柔整専門学校開催主管、中和医療専門学校との共催で、3月24日(土)と25日(日)の両日、米田柔整専門学校3階にて第1回の臨床実習指導者講習会が開催された。

1日目は正午から午後8時過ぎまで、2日目は午前8時55分から午後7時30分までというハードスケジュールのなか、両校の就職説明会で積極的に受入れの意向を示した接骨院を中心に、限られた定員に対して

## Welcome!! 新入会員

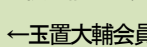
氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
祖父江拓哉	S61.12.29	熱田	名古屋福祉	—	ドライブ
玉置大輔	S57.4.29	中村	米田柔整	—	ギター
横地信行	S48.6.4	大曾根	米田柔整	—	観劇
諸山真也	S62.2.2	大曾根	米田柔整	—	釣り
榊原大雅	H3.10.23	岡崎	名古屋医専	—	ラーメン食べ歩き
石井良整	S54.12.17	笠寺	米田柔整	—	サーフィン
中村宜之	S52.5.5	大曾根	中和医療	初段	サーフィン・サッカー



↑祖父江拓哉 会員



↑横地信行 会員



←玉置大輔 会員



諸山真也 会員



榊原大雅 会員



石井良整 会員

snapshot



中村宜之 会員

第26回日本柔道整復接骨医学学会学術大会・基礎医学分科会フォーラムにて研究発表しました。

## 国試合格率58.4% またも最低を更新

3月4日(日)に実施された国家試験の結果が3月28日、厚生労働省より発表された。

受験者総数6,321名のうち合格者数は3,690名で、合格率は58.4%と昨年の63.5%からさらに5.1%下げて過去最低を更新した。

受験校は昨年の116校から122校に増えたが(うち12校は既卒受験者のみ:閉校)、一方で受験者総数は、過去最高を記録した2010年の7,156名から800人以上減少した。また新卒受験者数(4,261名)は、その受験者らが入学した3・4年前の養成施設の定員(約8,750名)の半数を下まわった。当時から定員割れが言われていたものの、新卒受験者数との大きな乖離は多くの養成施設にとって経営面で深刻な問題であろう。

学制改革によって curriculum が大幅に増え、3年後には国家試験のハードルも上がるが、それ以前にすでにこのような状況であることから推して、今後ますます資格取得者の減少に拍車がかかることが予想される。



45名の柔道整復師(うち本会会員13名)が、良質の学生を輩出させる使命感を抱き熱心に聴講した。

学校協会副会長で主催責任者の米田忠正先生は、「北海道に次ぎ全国で2番目の開催となった。法改正で校外実習が可能となったので受講者の皆さんに協力していただき素晴らしい学生を育ててほしい」と挨拶。

聴講者は7グループに分かれ、それぞれのグループに教員が世話人として1名ずつ付き、1日目は5講義とそれに付随する3つのグループワーク、2日目は4講義と4グループワークが行われた。講義2では本会森川会長が、「施術録の意義」と題して40分の講義を受け持った。

その他、「コーチング・フィードバック技法」や「昔の学生と今の学生の特徴の違い」・「ハラスメント」・「臨床実習の具体的プログラム作成」などの概要を座学で学び、その後輪番で司会・記録・発表者を選び、各テーマに沿ってワークショップを行なった。

講義を聴くだけの日頃の講習会とは違い、課題に対して積極的にブレインストーミングして討議し解決案を見出していくという不慣れな講習に、さらに16時間という長さも加わって、多くの参加者から疲労困憊の声が聞こえた二日間であった。(副会長 長谷川貴一)